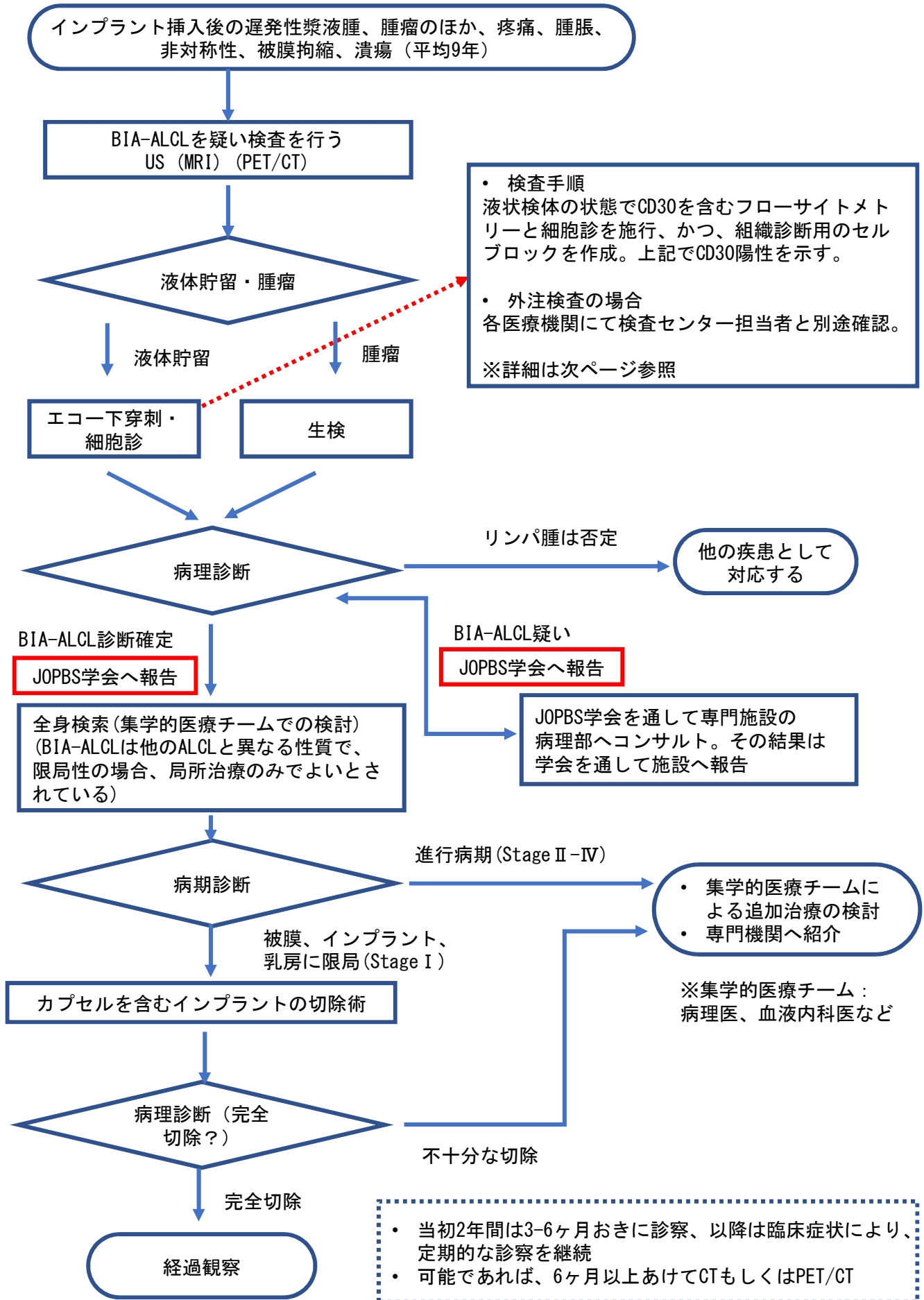
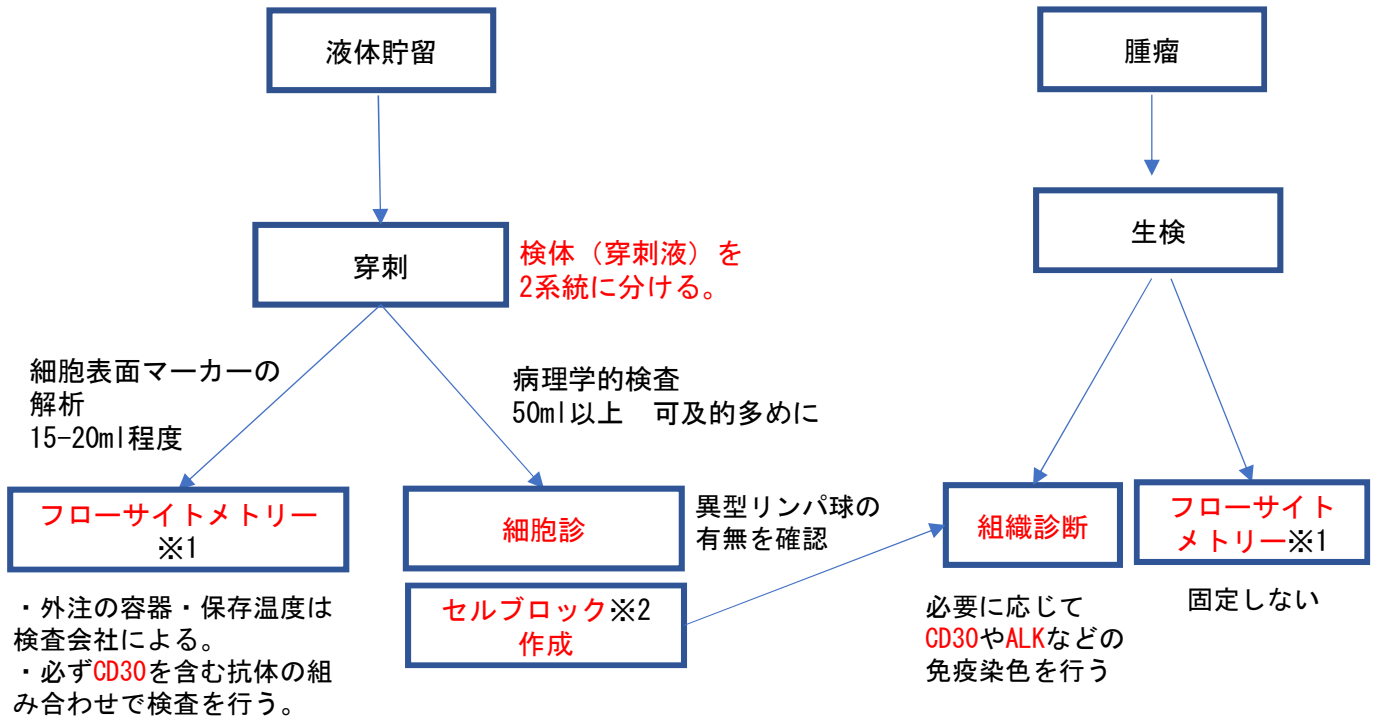


【BIA-ALCL疑い症例に対する検査・治療フローチャート】



〈BIA-ALCL検査手順詳細〉



※1 フローサイトメトリーは一般的には施設の病理部門では対応していないことが多いです。
 ※2 セルブロック法とは細胞診検体を沈殿固定し、包埋—薄切を行なうことで、疑似組織的な標本作製する手法。病院に病理部門があれば通常は必要に応じて対応できます。外注先はセルブロックを作成できないので、セルブロック作成後の依頼、もしくはスライドグラスに乗せて免疫染色を依頼、となります。各施設の状況に応じて、学会で相談を受けることが可能です。

・それぞれの検査結果の解釈が難しい場合は、学会で相談を受けることが可能です。

解析法	解析可能時期	診断確定のための必要性
1 細胞診	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (1か2のどちらかは最低限必須)
2 セルブロックの作成及び組織診	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (1か2のどちらかは最低限必須)
3 CD30を含むフローサイトメトリー	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (出来ない場合は4である程度代用可能)
4 CD30 (及びその他) 免疫染色	保存(セル)ブロックに対して施行	1, 2, 3で異常所見があった場合に行う。
5 ALK免疫染色	保存(セル)ブロックに対して施行	CD30陽性リンパ腫であると確定した時点で行う。
6 細胞診スミアに対するALK FISH	検体採取時にしかオーダーできない	不要
7 ALK FISH	保存(セル)ブロックに対して施行	不要 (ALK免疫染色陽性例や、研究・報告用途など特殊な場合)